

NNネットの活動に参加するには？

▶ SRを広げるとりくみに参加する

会員になる

「SR（社会的責任）」について共に考え、行動するNPO/NGO団体を募集中です。

会員になっていただくと、NNネット主催セミナーに特別価格でご参加いただけるほか、ISO26000 および SR 円卓会議等、SR 関連の最新情報をお届けします。また、他セクターとの議論の場に、NPO/NGO セクターとして議論に参加いただける機会があります。ともに考え、行動するNPO/NGO 団体のご参加をお待ちしています。

入会までの流れ

- 1 WEBから入会申込書をダウンロード
- 2 入会申込書、団体定款(規則)、直近年度の事業報告書と決算報告書を事務局に郵送
- 3 幹事会にて審議
- 4 入会 会員：1口2万円
サポーター(準会員)：個人1口1万円・団体1口2万円

※年会費は毎年、4月1日より翌年3月末までの1年間です。

▶ SRについて理解を深める

NNネットのブックレットを購入する

- これからのSR
一社会的責任から社会的信頼へ
定価 700円



- 策定に関わったNPOが読み解くISO26000
定価 700円



イベントに参加する

NNネットは、報告会やSRに関するフォーラムなど、広く開かれたイベントを開催しています。WEBサイトやFacebook、Twitterを通じて、随時開催をお知らせします。

▶ SRを高める場をつくる

セミナー・勉強会を開く

今後ますます重要になるSRの概念について、またそれぞれの組織でSRを実践するためのヒントについて、みなさまの団体、地域でも、学習の機会を設けてみませんか？NNネットが開催をお手伝いします。

NNネットがお手伝いできること

- 1 企画協力、テーマ・内容のご提案
- 2 講師のご紹介
- 3 ブックレットのご紹介

SRセミナー、勉強会の開催のお申し込みはWEBから申込書をダウンロード

▶ NNネットを支援する 寄付をする

NNネットの活動へのご支援をご検討いただける場合は、下記事務局までご一報ください。

幹事団体

- 特定非営利活動法人 NPO サポートセンター
- 一般社団法人 環境パートナーシップ会議(EPC)
- 特定非営利活動法人 国際協力 NGO センター(JANIC)
- 特定非営利活動法人 参画プラネット
- 一般財団法人 CSO ネットワーク
- 一般財団法人 ダイバーシティ研究所
- 特定非営利活動法人 難民を助ける会(AAR Japan)
- 特定非営利活動法人 日本 NPO センター
- 人と組織と地球のための国際研究所(IIHOE)

(任期：2012年4月1日～2014年3月31日)



社会的責任向上のための
NPO/NGOネットワーク (略称: NNネット)

事務局: 〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1新大手町ビル245
認定特定非営利活動法人日本NPOセンター内
TEL 03-3510-0855 FAX 03-3510-0856 E-mail office@sr-nn.net
URL www.sr-nn.net



社会的責任向上のための
NPO/NGOネットワーク

社会的責任

から

社会的信頼



NNネットは、
NPO/NGOの、
NPO/NGOによる、
NPO/NGOのための、
SRを推進するネットワークです

NPO/NGOがSRに (Social Responsibility) 取り組む理由

地域や地球規模の課題の解決に向けて

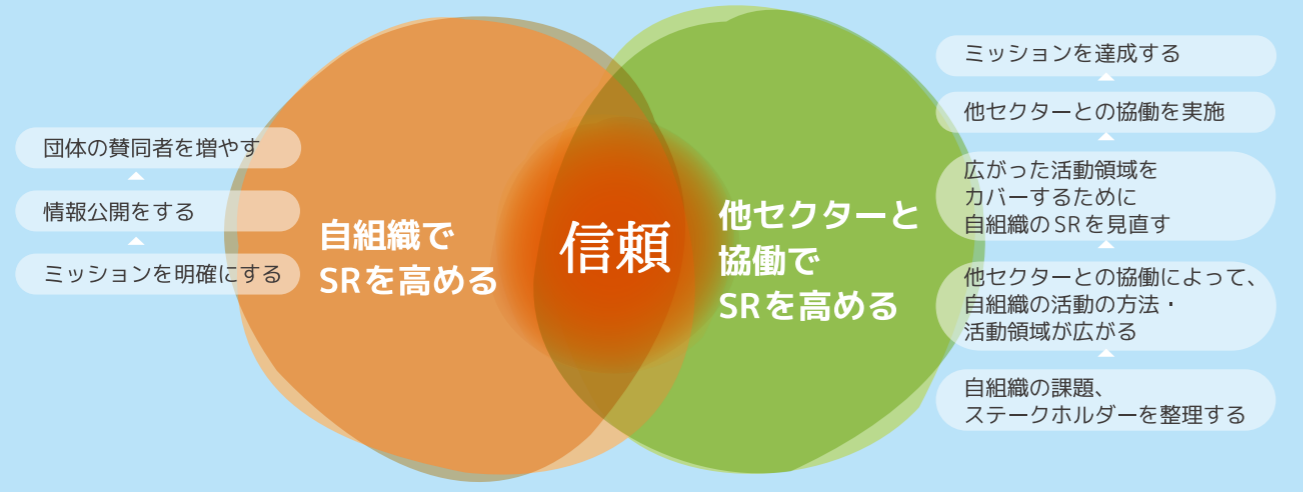
社会のあらゆる問題を解決するために、市民活動はますます活発になりNPO/NGOへの期待は大きくなっています。一方で、NPO/NGOが組織として発展するにつれ、NPO/NGO自身も、情報公開や説明責任、雇用など、組織としての社会的責任 (SR) をより一層自覚し、対応することが求められています。

なぜ、本来活動とは別にSRまで果たさなければならないのか？

そんな問いかけには、「信頼」を得るためだと言いきっても大げさではないでしょう。

NPO/NGOが組織として社会的責任を果たすことで得た「信頼」により賛同者を増やし、また、政府や企業など、他のセクターとの関わりが増えていきます。その結果、社会問題が解決に近づき、さらにNPO/NGO自身が社会的信頼を高め、より力強く活動できるようになる…SRに取り組むことは、NPO/NGOにとって大きなメリットがあるのです。

SRを高める2つの視点と信頼獲得



社会的責任向上のためのNPO/NGOネットワークとは (NNネット)

NNネットは、NPO/NGOの、NPO/NGOによる、NPO/NGOのためのSRを推進するネットワークです。

NNネットは、市民セクターの社会的な位置づけの向上と、住みよい社会の創造を目的に、NPO/NGOの自発的な参画と連携を通じて、SRの自覚の促進、SR概念の普及などを積極的に行っています。また、他セクターとのSRに関する対話の場にNPO/NGOセクターとして参加しています。

NNネットの主な活動・実績

2008	5月	有志団体のネットワークとして発足。設立総会	2012	3月	「社会的責任 (SR) が拓く、組織力アップ～あなたの組織は、ISO26000をどう活かせるか」(名古屋)
	5月	「安全・安心で持続可能な未来に向けた社会的責任に関する円卓会議 (SR 円卓会議)」設置検討に参画		5月	SRフォーラム 2012
	6月	ISO26000 勉強会(全5回開催)			
2009	10月	SRフォーラム	2010	4月	SR円卓会議 ワーキンググループ共有会議 2010
	2月	SRの基礎を学ぶ！連続セミナー (全3回開催)		5月	NNネット 2010 総会記念フォーラム SRカフェ
	5月	SR円卓会議についての情報共有会 (全8回開催)		10月	SR 円卓会議 協働プロジェクト・ワーキンググループ進捗共有会議
2010	10月	「ISO26000で集まろう！NPO・NGO コメント集約会」	2011	11月	ISO26000 国際規格 発行お祝いの会
	2月	ブックレット『これからのSR 社会的責任から社会的信頼へ』発行		5月	ブックレット『策定に関わった NPOが読み解くISO26000』発行
				11月	「ISO26000の最新動向～JIS規格化で何が変わる？～社会的信頼を得るための組織を目指して」(大阪)
				11月	NPO/NGO向け ISO26000 勉強会 「自団体の運営を ISO26000 から考えるワークショップ」



2012.5.18 SRフォーラム 2012

SRを果たしていくためのツール

複数の関係者での対話 「マルチステークホルダープロセス」

背景の異なる複数の関係者 (ステークホルダー) がテーブルを囲み、課題解決のための行動計画や目標についての合意形成を行っていく枠組みやその過程のことを「マルチステークホルダープロセス」といいます。利害が複雑にからみあい、また幅広い分野にわたるSRの議論においては欠かさない議論の方法です。

各ステークホルダーが、合意形成された結果に責任を共有することが大きな特徴です。また、プロセスが広く公開されることで自らのセクターのSRを果たすという緊張をもち、社会的に信頼を得るセクターに成長していくきっかけになります。

事例紹介

SR円卓会議

2009年3月、「安全・安心で持続可能な未来に向けた社会的責任に関する円卓会議 (SR円卓会議)」が発足しました。

日本で最初のマルチステークホルダープロセスともいえるSR円卓会議では、従来の政府が主催する審議会とは異なり、事業者団体、労働組合、消費者団体、金融セクター、政府、専門家、NPO/NGOの7セクターの代表が対等な立場で参加し、社会の課題に協働して取り組んでいます。

NNネットはこのSR円卓会議とNPO/NGOをつなぐため、協議テーマの検討、協議経過の報告などを行い、4つのワーキンググループ「ともに生きる社会の形成」「地球規模の課題解決への参画」「持続可能な地域づくり」「人を育む基盤の整備」に、NPO/NGOセクターの代表として代表協議者を派遣しています。

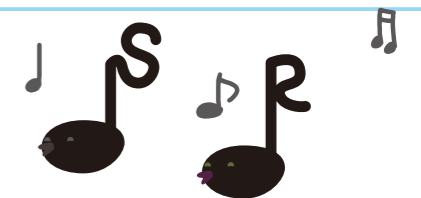
SR円卓会議のウェブサイト→ <http://sustainability.go.jp/forum/index.html>

地域円卓会議 in 茨城

SR円卓会議の2010年度の協働プロジェクトとして企画された初めての「地域円卓会議」。円卓会議の趣旨や可能性を地域に紹介することから始め、10回の会議を経て、「農業の支援と新たな仕事づくり」「新しい公を広げるための地域資源循環」「公共交通活性化と買い物・外出支援」をテーマに決定しました。協働のアイデアを出し合った結果、資源循環については「いばらき未来基金」が立ち上げられました。また、各セクターが話しやすい土俵ができたことで、東日本大震災では円卓会議を通じて生まれたつながりが迅速な連携につながり、生協やバス会社などの様々なセクターが協力して、地元の北茨城や福島いわき市に迅速に支援を届けることができました。



SRに関する国際規格「ISO26000」



ISO (国際標準化機構) が2010年11月1日に発行した、組織の社会的責任に関する国際規格です。ISO26000の開発にあたっては、ISO規格としては初めてマルチステークホルダープロセスがとられました。

NNネットはISO26000の発行に向け、NPO/NGOとしての意見を広く議論する場を提供し、検討に参加する代表協議者を選出しました。

ISO26000には、7つの原則と7つの中核主題が掲げられており、組織は、社会的責任の原則と中核主題の両方を尊敬すべきであると書かれています。

ISO26000の7つの原則と中核主題

7つの原則

1. 説明責任
2. 透明性
3. 倫理的な行動
4. ステークホルダーの利害の調整
5. 法の支配の尊重
6. 国際行動規範の尊重
7. 人権の尊重

7つの中核主題

全体的なアプローチ

